承認番号：1571

2000 年 1 月以降に当センターにおいて

病理解剖をお受けになった患者さんのご遺族の方へ

（1）研究の概要について

埼玉県立がんセンター長の承認を受け、「解剖例における下垂体ホルモン産生と死因の検討」を実施しております。下垂体は脳底部に位置する内分泌臓器です。

今までに下垂体機能と病理組織所見の関係について、十分な検討がなされてきていませんが、全身のホルモン状態を良好に保つこととがん治療を受ける患者さんの体調には、大きなかかわりがあると考えています。

具体的には2000年以降に埼玉県立がんセンターで病理解剖された方が研究の対象となります。

病理解剖のご承諾はいただいておりますが、改めて研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を承りますようお願い申し上げます。

この研究への協力承諾の撤回を希望される場合や、また研究に関するご質問がある場合には、下記の問い合わせ先へご連絡ください。

研究題名：「解剖例における下垂体ホルモン産生と死因の検討」
研究期間：承認後～令和 7 年 3 月 31 日
研究責任者（所属・職名・氏名）

病理診断科	科長	神田浩明
同	副部長	石川文隆
同	非常勤医師	井下尚子

全体としての研究の実施体制

研究責任者（所属・職名・氏名）
東京都健康長寿医療センター
病理診断科・専門部長（当院非常勤医師）　井下尚子
他　**3施設**

（2）研究の意義・目的について

下垂体は、全身のホルモン中枢として、体調を管理する。前葉から出る副腎皮質刺激ホルモンにより分泌更新する副腎皮質ホルモンや、後葉から出るオキシトシンは、ストレスホルモン、幸せホルモン、とも言われ、亡くなる直前のストレスなどを軽減している可能性があります。また、後葉から出るバソプレシンやその他の蛋白は、尿量や血圧、浸透圧の調節等を担っており、がん治療における体調不良を改善できる可能性があります。これらを明らかにし、がん治療を行う患者さんの負担軽減につながる治療の提案ができれば、と考えています。

（3）研究の方法について

①対象となる解剖症例の下垂体組織、およびそれにつながる脳の一部（視床下部）を、既に染色された HE 標本を用いてスクリーニングし、その病理組織学的所見を明らかとします。

②形態学的評価法が確立していないため、見出された各所見について Grading を試み、HE 染色を用いた形態学的評価法の確立を目指します。③ターゲットとなる分子に対し免疫染色等の方法を用いて評価します。④背景の既往歴、持病、治療歴などをカルテから調査し、下垂体の状態との関連を検討します。

（４）資料の保管と、他の研究への利用について

本研究を行うときには、個人情報とは完全に分離した形で扱っておりますので、患者さん の個人情報が漏れる心配はありません。他の研究への２次利用は予定されていません。なお、研究終了後のデータの扱いについては、論文の根拠となるデータは発表後、5 年間保管します。保管責任者は研究責任者とし、保管場所については埼玉県立がんセンター内病理診断科内の所定の場所で、厳重に保管します。

（５）資料の入手または閲覧、開示

本研究の計画や方法についてはご遺族の希望に応じて、資料の要求または閲覧ができます。本研究の結果を知りたいと希望される場合は、研究担当者にその旨をお伝え頂ければ、他の研究者に不利益が及ばない範囲で、研究結果をお伝えします。希望された資料が他の研究対象者の個人情報を含む場合には、資料の提供または閲覧はできません。

本研究に関し、研究対象者への経済的負担はありません。本研究結果から研究者個人の収益等はありません。また、ご家族に遺伝する疾患等の情報が得られる可能性は想定されておりません。

（６）問い合わせ先

①埼玉県立がんセンター病理診断科　神田浩明

〒362-0806　埼玉県北足立郡伊奈町大字小室780

電話　048-722-1111（代表）（平日 9:00 ～17:00 ）

②東京都健康長寿医療センター病理診断科　井下尚子

〒173-0015　東京都板橋区栄町 35-2

電話 03-3964-1141（代表）（平日 9:00 ～17:00 ）